ダイヤモンド
祝

バーク神父様への
感謝をこめて

～ 神父様の軌跡と信徒寄稿文集 ～

2017年3月19日
アルフレッド・バーク神父様
司祭叙階60周年記念ミサに寄せて

カトリック二俣川教会

略歴

1930年 ８月17日　米国シカゴで4人兄姉の末っ子として生まれる

1946年　聖モニカ神学校　入学

1957年 ２月９日　司祭叙階 St.メリーズ教会(米国･ワシントン)

1959年　聖アウグスチノ大学大学院修士課程(物理学)修了
2年間、シカゴ･メンデルカトリック高校で物理学を教える

1961年 8月　31歳　アウグスチヌス会の宣教師として来日(航路)
2年間六本木で日本語を学ぶ

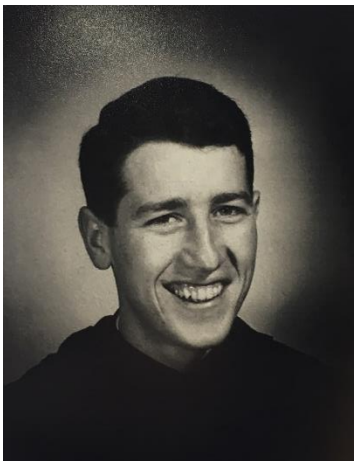
その後…秦野教会･磯子教会･高輪教会(東京)で助任司祭
相模原教会･二俣川教会･末吉町教会･山手教会･戸塚教会･
大船教会で主任司祭として宣教司牧活動につとめる

2015年 12月23日　心筋梗塞で倒れるも、緊急手術で一命を取り留める

2017年 2月12日　大船教会にて叙階60周年を祝う

アメリカ時代の
バーク神父様

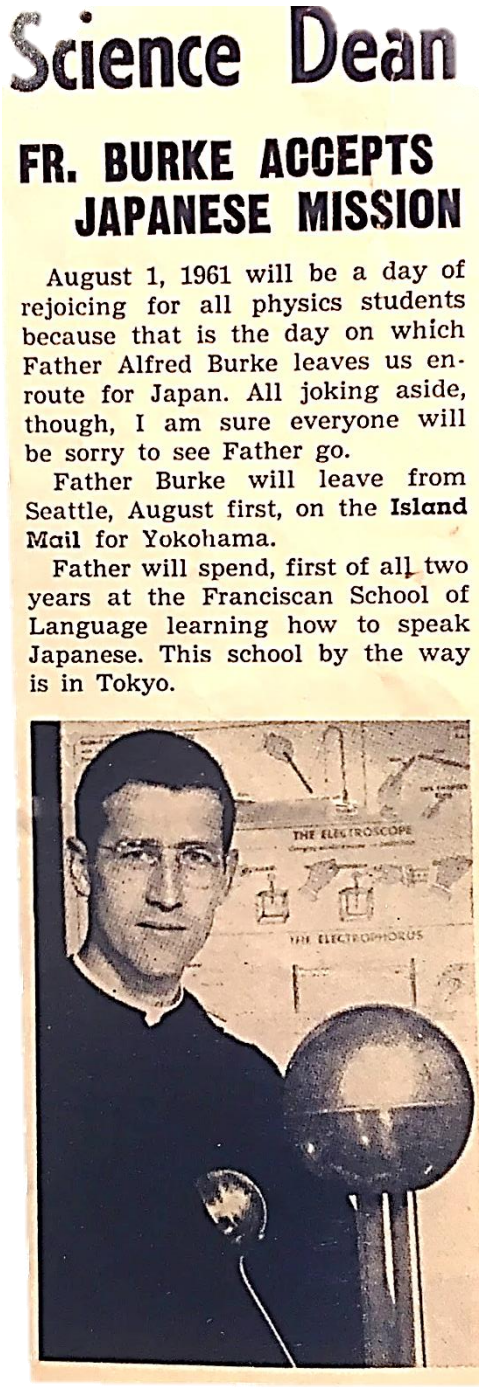
お兄様と



若かりしバーク神父様

お母様(右)とお姉様(左)との記念写真

お姉様と



Science Dean

FR. BURKE ACCEPTS JAPANESE MISSION

August 1, 1961 will be a day of rejoicing for all physics students because that is the day on which Father Alfred Burke leaves us en-route for Japan. All joking aside, though, I am sure everyone will be sorry to see Father go.

Father Burke will leave from Seattle, August first, on the **Island Mail** for Yokohama.

Father will spend, first of all two years at the Franciscan School of Language learning how to speak Japanese. This school by the way is in Tokyo.

バーク神父様の日本への
派遣を伝える新聞記事

バーク神父様と

1983年4月

バーク神父、主任司祭として着任

1984年4月

ドバール神父、ルベール神父の
来日歓迎会

1985年3月

二俣川教会献堂20周年記念ミサ

1986年1月

「二俣川教会の再建を考える会」発足

3月

芹沢雅仁助祭の司祭叙階式(当教会)

1988年3月

芹沢博仁助祭の司祭叙階式(当教会)

1988年4月

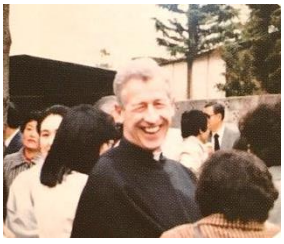
横浜教区50周年記念ミサ

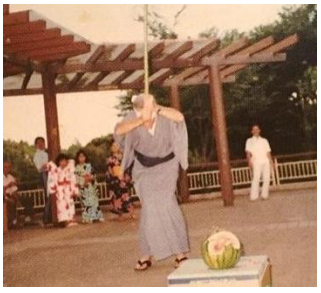
ボランティアグループのランパス、
聖マリアンナでの移動図書から活動を開始

二俣川教会献堂20周年を前に来日された
ドバール神父とルベール神父様をかこんで
(右から、ドバール神父･エドワード神父･鈴木勁介神父･
ルベール神父･バーク神父･伊藤淑雄神父)

信徒お手製の
26個の十字架が
かけられた

いつもこの笑顔で
迎えてくださいました





スイカわり

芹沢博仁助祭の司祭叙階式(当教会にて)

子供たちと

二俣川教会

1989年10月

白木信一助祭の司祭叙階式
(聖ヨゼフ学園)

白木信一助祭の
司祭叙階式
(聖ヨゼフ学園)

1990年3月

林健久助祭の司祭叙階式(当教会)

4月

高橋慎一神父、助任司祭として着任

1992年4月

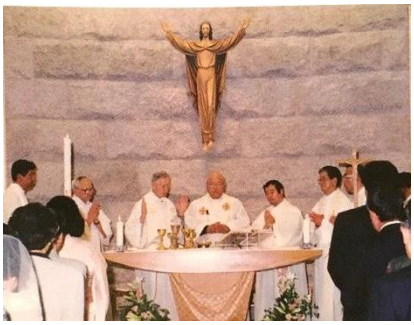
バーク神父、末吉町教会へ転任

林健久助祭の
司祭叙階式
(当教会)

バーク神父との最後の
クリスマスコンサート

1992年
転任されるバーク神父へ
信徒一同より125ccの
バイクをプレゼント

1995年5月
濱尾文郎司教による新聖堂献堂式



1997年 フランス･イタリア巡礼旅行

2014年 二俣川教会50周年記念行事
歴代主任司祭ミサにて

2016年4月 牧山善彦助祭の司祭叙階式にて
按手をするバーク神父

感謝のうちに

マリア ヨゼフィナ Y.A.

バーク神父様、叙階60年・ダイヤモンド祝おめでとうございます。
子供からお年の方迄、皆に大人気のバーク神父様。当時のお婆ちゃま達は手を合わせ、イエズス様のようと嬉しそう。ですので、お忙しさは120％。ご自身の時間は無なのではと思われる程でした。
その場に居て下さるだけで温かさを感じさせて下さる神父様は大分せっかちさんです。１分でも早くご聖体をお持ちしたいと、お出掛けは全てバイク。「バイクはいいですよ〜渋滞でも早く行けます。」とニコニコ顔。
信徒が教会に来なくなる事に一番心を痛められ、その方々にさりげなく手紙を送られたり、訪問されていました。何かお役をお願いし断られる事が一番お困りのようでした。一番のお喜びはミサでご聖体を授ける事。ミサに与る事は大切で大きな喜びなのですね。
バーク神父様との出会いを感謝しています。

バーク神父様の思いで

マルタンデポア　M.O.　家族

家族で写真撮影。それが赴任されてきた神父様との最初の出会いでした。お聖堂の前で家族ごとの写真を「ファッ　ファッ　ファッ（笑い声）いいですね〜」と撮られている神父様の姿を見て、一気に虜になったのを今でも覚えています。
神父様のころ私たちは夏季学校のスタッフとして、毎年一緒に合宿をしておりました。ある年、静岡の高校を宿に泊まった時の出来事です。夜になり、子供たちが寝てミーティングも終わり、さあ寝るぞと歯を磨いていると神父様が寝袋をもって宿舎から出ようとしています。広い敷地の中には畑があり、「マムシ注意」の看板が立っています。「神父様、外はマムシが出て、危ないので中で寝ましょうよ。」と、私たちは当然声をかけたのですが、神父様は、「ファッ　ファッ　ファッ（笑い声）マムシと友達になればいいんですよ！」と言いながら、闇に消えていきました。ワイルドな神父様、大好きです。
叙階60周年、おめでとうございます。これからもずっと、僕らを見守っていてくださいね。

バーク神父様叙階60周年に寄せて　セシリア　M.S.

1983年春、私はマリア会当番会を担った時、二俣川教会に着任されたばかりの神父様とお会いしました。その日から35年の歳月、神父様の一貫してのお言葉は「大丈夫！大丈夫！」この励ましに、内奥に抱える様々な思いは払拭されました。在任時に老朽化した聖堂建て直しへの発端を切られ、一同で再建への努力を重ね、現教会献堂式を迎えたのは1995年春でした。

その感謝を込め、1997年春、神父様と私達50余名で欧州巡礼へと旅立ちました。ローマで教皇様との謁見を終え、アウグスチノ会本部の聖堂で、神父様の叙階40年の記念ミサは喜びと感謝に包まれました。そして叙階50年には聖地イスラエルまでも巡礼できる恵みに与りました。参加者の一針を込めた金祝の祭服を着用いただいたガリラヤ湖畔でのミサは、まさにガリラヤの風薫る丘を神父様と共に実感できた至福の時でした。

そして今日叙階60年、この良き日を二俣川教会一同でお祝いできる幸せを心から感謝しています。いつまでも共にいて下さった神父様へ、私達の深い喜びと感謝の祈りが恩寵のうちに届きますよう願ってやみません。

バーク神父様とランパス　マリア・フランシスカ　T.S.

初めてバーク神父様にお会いしたのは、神父様が二俣川教会に赴任された直後でした。一人で不安のうちにお迎えした私を、バーク神父様は気取らない笑顔と暖かさで、私の不安を平安に変えて下さいました。

1987年、病院ボランティア「ランパス」を立ち上げてから30余年の活動は、バーク神父様の信仰の支えの上に生かされてきました。

私が会の運営で悩み、苦しみを抱えて神父様に会いに行くと、『大丈夫、お祈りしていますよ！』と励まして下さった。帰り道には慰めと平安を得ていました。

バーク神父様、本当のキリスト者と出会えたことは私の宝です。失意を希望に変えて下さった。バーク神父様ありがとう！

聖マリアンナ病院の神父様　マリア・アウグスチナ　S.N.

アルフレッド・バーク神父様、ダイヤモンド祝を迎えられおめでとうございます。二俣川教会の主任司祭として、また、他の教会へいらっしゃった後も、いつも優しい笑顔とお言葉の“私たちのバーク神父様”です。

昔の古い教会、集会室の2階で椎野恵子さんをリーダーとして対面朗読のボランティアをしておりました。その集まりが母体となって、聖マリアンナ病院の発足に伴い、病院ボランティアが始まりました。バーク神父様を通して病院から要請を受けたのでした。始めるにあたり神父様の御指導のもと、黙想会があったと記憶しています。

ピンクのエプロンをして、御入院の方々の御快癒を祈り願いつつ、ブック・トラックを押しての移動図書、勿論、神父様も御都合の許す限り御参加下さいました。神父様の為に青いエプロンが用意されました。神父様が病室をまわっていらっしゃると、長身の優しい物腰、笑顔、ちょっとしたお言葉に御入院の皆様は非常に喜びました。

ボランティア会ランパスは、こうして聖マリアンナ病院から始まりました。そして、椎野さんの御盡力のもと、大きく広がって、今も続いております。

バーク神父様とチョコリット　エリザベト　M.N.

バーク神父様は、カッコよくて優しくて、みんなの憧れですよね!　小学生の私も、聖体拝領で神父様にぐっとかかんでもらって目が合うと、ドキドキしたものです。

中学生になり、友だちにも家族にも話したくない事があった時、学校帰りに教会へ行きました。どこで見ていたのか、聖堂を出ると神父様がいました。「こんばんは、何年生ですか?、いいですね、ふぁっふぁっふぁっ…」二言三言交わしただけで、悩んでいたのを忘れるくらいHAPPYになりました。その気持ちを伝えたくて、また、学校帰りに教会へ行きました。

いつかの2月14日、バレンタインデー。精一杯のことばを添えて神父様に渡しました。数日後、神父様からお手紙が届きました。″私のことなんて知らないはずなのになんで?″と不思議に思いました。母に聞いてみると、神父様はひとりひとり

を覚える為に写真を撮ってファイルしていると知り、その努力に感服しました。頂いたお手紙にあったチョコリット(チョコレート)の文字。外国の響き、神父様の余韻。今も、私は神父様を想うとき、チョコリット、チョコリット…と呟いてしまいます。神父様が大勢いる信徒の中から私をみつけてくれたことを思うと、天にも昇る嬉しさでした。『神さまは私たちひとりひとりを分かっていてくださる』といいますが、私は天の父の優しさ、偉大さをバーク神父様を通して実体験することができました。

青年になって、夏季学校の肝だめしが「怖すぎます」って叱られたり、「神父様はジャージで横たわる姿もステキ」と仲間とはしゃいだりする度に"神父様、私のこと覚えてるかな?"と考えていましたが、覚えてなくてもいいんです。覚えてなくても、きっとまた私をみつけてくださるから❤バーク神父様、ダイヤモンド祝おめでとうございます。

「祈り」そして「笑顔」

使徒ヨハネ　S.M.

人生、そして信仰は「人との出会い」を通じた「神との出会い」である。「人」とは「両親」であったり、「友人」であったり、そして何よりも「聖職者」であろう。バーク神父様との出会いを得た私達は、皆それを最高のお恵みと感じている。

私は1990年度の教会委員会の総務を務めた。椎野保委員長のもと、委員の皆さんと色々と議論をし汗を流したことを懐かしく思い起こす。当時、神父様は懸案の会堂再建を実行に移すご意向を固められ、より良い教会を目指し何事にもとても積極的であった。

神父様は教会員の心を一つにする力をお持ちである。それは、神父様の分け隔てない慈愛に満ちた温かい笑顔、信仰への情熱によるものであるが、（私が思うに）それは神様からのプレゼントである。…いつも他人のためにお祈りを捧げられる神父様への。

バーク神父様の思い出

マリア　N.Y.

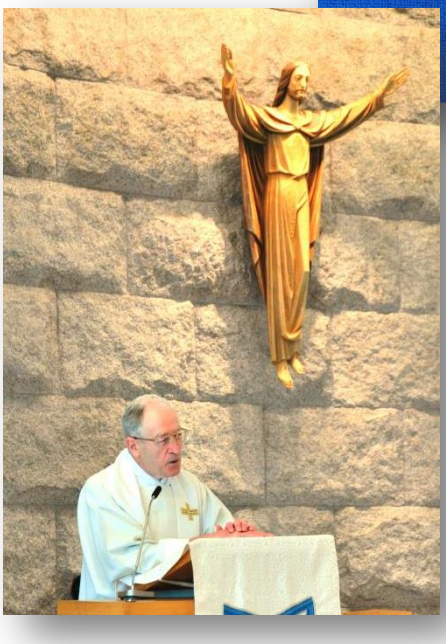
今から2〜30年前、私がまだ幼児・小学生の頃、この二俣川教会には毎週たくさんの子どもたちが来ていました。

日曜日の朝、バーク神父様は雨の日も雪の日も入口（中庭）に立ち、教会学校に来た私たち一人ひとりに、「おはようございます」と声をかけてくださいました。私たちはそれがとても嬉しくて、皆、神父様と握手やハイタッチをし、それぞれの部屋に走って行ったものでした。ミサ後も、神父様が大人の人たちと挨拶されているなか、たくさんの子どもたちが神父様にまとわりつき、修道服（スカプラリオ）の中に入ったり、ベルトを引っ張ったりと、とにかく神父様と一緒にいることが嬉しかったのです。

そんな「笑顔でやさしい神父様」もミサのときは、想像できない程「厳格で恐い神父様」でした。ミサ奉仕者に対しては、たとえ大人であろうと小学2年生であろうと、容赦はしませんでした。神父様が厳しくしている理由はただ一つ「ミサ典礼の流れを大切に、決して止めてはいけない」、これだけです。しかし実際は、このたった一つを守るのが難しく、特に侍者の役割、責任について、私は多くのことを学びました。

これらのことを、神父様は言葉では説明しません。ミサの中、その時、その時、目と顔の表情で注意されるだけでした。私には、それがかえって恐くて、いつもいつも緊張していました。でも、ミサが終わると、また、やさしい顔の神父様に戻っておられました。私たち子どもたちは、そんなバーク神父様の後ろ姿を見ながら育っていったのだと思います。

GOD IS VERY GENEROUS. HE EVEN SELECTED SOMEONE LIKE ME TO BE A PRIEST. HE HAS GIVEN ME GREAT JOY WORKING AS A PRIEST AND HAS SOSTAINED ME WITH THE KINDNESS AND GENEROSITY OF YOU WONDERFUL PEOPLE.

Fr. Alfred Burke, O.S.A.

神はとても寛大であります
神は私のような者も選んでくださった
司祭になるため　神は私に司祭として非常に大きな喜びを与えてくださいました
それは皆さんが　親切であって素晴らしい人だから。